



【問合せ先】

第七管区海上保安本部
交通部 安全対策課
課長 浦川 和久
TEL 093-321-2931(内線 2640)

令和3年12月17日

第七管区海上保安本部

令和3年の海難・人身事故の発生状況（暫定報告）
～コロナ禍2年目の事故発生状況は？～

令和3年1月1日（金）～令和3年12月12日（日）までの
船舶海難・人身事故の発生状況は、令和2年に比べ
船舶海難：ミニボートの海難が25隻<13隻>と約2倍に増加！
人身事故：遊泳中の事故が28人<14人>と2倍に増加！4人が死亡！

- ※ 値は速報値であり、今後変更される場合もあります。
- ※ 令和3年の値については、全て
令和3年1月1日（金）～令和3年12月12日（日）まで
の値です。
- ※ 説明文中〈 〉内は令和2年の値です。
- ※ 令和4年1月前半に改めて、令和3年の海難・人身事故の発生状況については広報いたします。

【船舶海難】（別紙1及び2参照）

令和3年は、325隻発生 令和2年1年間の発生数は、333隻
死者・行方不明者数は11人<7人>で、内訳は漁船7人、プレジャーボート4人（うち、ミニボート1人）です。

船種別では、

プレジャーボート	158隻<147隻>	11隻増加
ミニボート	25隻<13隻>	と令和2年の約2倍と急増
漁船	88隻 <96隻>	8隻減少
貨物船	26隻 <41隻>	15隻減少

海難種別では、

衝突	90隻 <85隻>	5隻増加
運航不能（機関故障）	54隻 <42隻>	12隻増加
乗揚げ	32隻 <39隻>	7隻減少

となっています。

【人身事故】（別紙3及び4参照）

令和3年は、274人発生 令和2年1年間の発生数は、270人。
死者・行方不明者数は、116人<128人>で、内訳は自殺37人、原因不明32人、釣り中16人、その他31人でした。

事故区分別では、

マリンレジャー以外の海浜事故	125人<122人>	3人増加
マリンレジャーに伴う海浜事故	75人 <68人>	7人増加
船舶海難によらない人身事故	74人 <80人>	6人減少

マリナーの活動内容別では、

釣り中 36人 <39人> 3人減少

遊泳中 28人 <14人> 14人増加

遊泳中の事故が令和2年の2倍と急増、遊泳中4人<6人>が死亡
となっています。

【事故事例】

漁船とプレジャーボートの衝突事故 ～基本的な見張りの徹底を！～

令和3年10月9日0650頃から、プレジャーボートA（長さ約5メートル、1人乗り）は長崎県茂木漁港沖にてパラシュートアンカーを降ろし遊漁中のところ、茂木漁港方面から接近する漁船Bを認めたことから、継続監視をしつつ遊漁を続けていた。0730頃、相手船の針路に変化が認められないことから、大きく手を振り自船の存在をアピールしたが、避航動作をとることなくそのまま衝突した。

漁船B（2.6トン、1人乗り）は、同日0715頃、茂木漁港を漁場向け出港した。その後、衝突前に変針を行ったが、漂泊中のプレジャーボートAに気付くことなくそのまま衝突した。

プレジャーボートAが航行不能となり漁船Bにより曳航され入港し、プレジャーボートAの船長が負傷したが人命に異常なかった。



プレジャーボートA
船尾部損傷状況



衝突した漁船B

ミニボートの事故 ～行方不明となる事故～

令和3年5月4日、事故者は0400頃、自宅を出発し、福岡県宗像市神湊に自家用車を止めて、ミニボートで沖合に釣りに出港したと思われる。通常1600には帰宅するものの帰宅が遅いことから、家族が捜索に当たっていたところ、事故者の車両のみ発見され、捜索願いがなされたもの。その後巡視船艇、航空機、警察、消防、地元漁船等により捜索がなされ、事故者のカヌー（ミニボート船体のみ）が巡視艇により発見されたが、事故者について行方不明のままとなっている。なお、事故者の自宅には救命胴衣が残されたままとなっており、非着用であったと思われる。



貨物船事故 ～衝突・乗揚げ！油の流出！！～



令和3年11月28日（日）2350頃、外国籍貨物船（総トン数：9,576トン、22人乗組み）が博多港から神戸港向け出港中のところ、福岡県福岡市博多区所在の博多港西防波堤北灯台付近の防波堤に衝突し、乗揚げたもの。該船には破口が生じ、同船の燃料が流出した。12月7日1143に同船は曳き降ろされたが、連日に亘る流出油の除去作業、渡船の運休、撤去作業に係る航泊禁止措置等、各方面に影響を与える海難となった。

遊泳中の事故 ～若い命が失われました～



潜水士による捜索状況

令和3年8月15日（日）1005頃、福岡県福岡市博多港内の福浜海岸にて、友人同士の高校生3人が、遊具用ゴムボートで遊んでいたがバランスを崩して転覆。ゴムボートを復元させようとしたが、風浪等の影響があり流されたため復元させることを断念し、陸岸まで泳いで戻ったところ、2人は砂浜にたどり着いたものの最後尾を泳いでいた1人の姿が見当たらなくなっていたもの。通報を受けた海保、警察、消防により捜索していたところ、海保潜水士により発見救助されたが、搬送先の病院で死亡が確認された。

釣り中の事故 ～荒天時の釣り中の死亡事故～



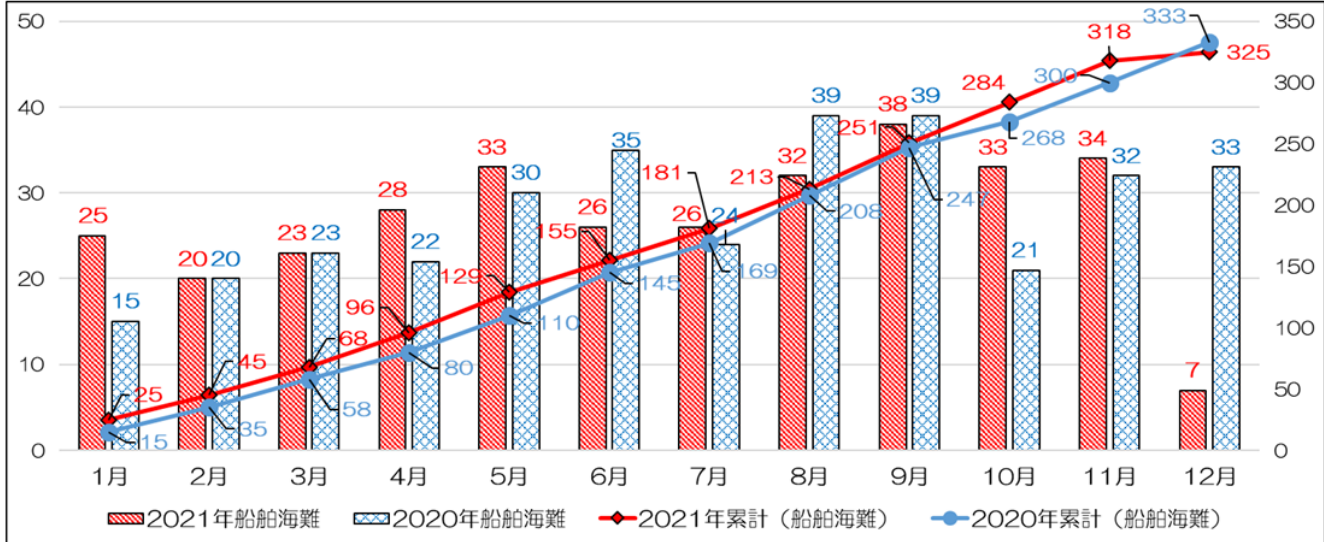
画像は事故直後の状態ではありません。

令和3年11月12日（金）1845頃、福岡県宗像市筑前大島において、事故者は、友人2人とともに、磯伝いに釣り場の磯場向け移動中のところ、高波にさらわれ海中転落したもの。友人が救助しようとしたが、救助できず通報がなされた。通報を受けた海保、警察、消防により捜索していたところ、岸に打ちあがっているところを発見され、診療所に搬送されたが搬送先の医師により死亡が確認された。なお、事故者は救命胴衣非着用であった。

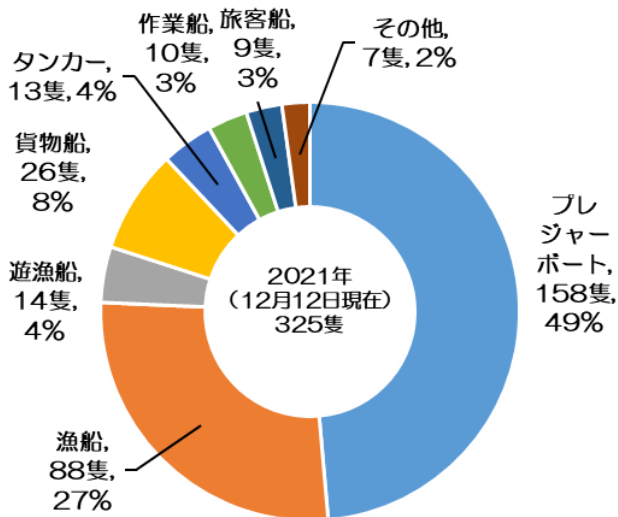
船舶海難の発生状況

2021年は速報値（12月12日現在）
2020年は確定値

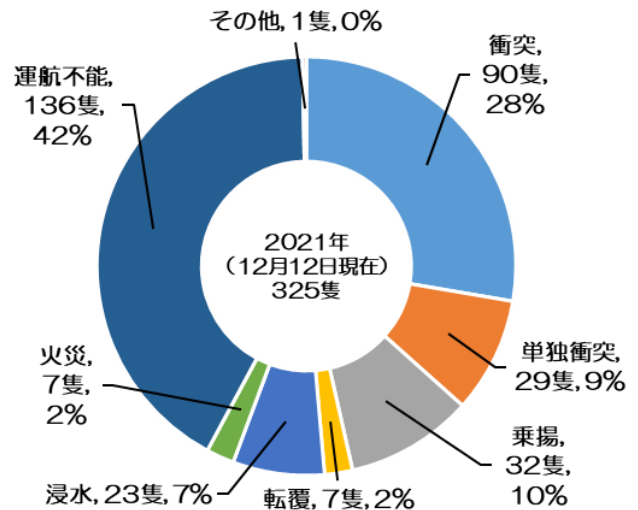
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2021年船舶海難	25	20	23	28	33	26	26	32	38	33	34	7
2020年船舶海難	15	20	23	22	30	35	24	39	39	21	32	33
前年差	10	0	0	6	3	-9	2	-7	-1	12	2	-26
2021年累計（船舶海難）	25	45	68	96	129	155	181	213	251	284	318	325
2020年累計（船舶海難）	15	35	58	80	110	145	169	208	247	268	300	333
前年累積差	10	10	10	16	19	10	12	5	4	16	18	-8



船舶種類別発生状況

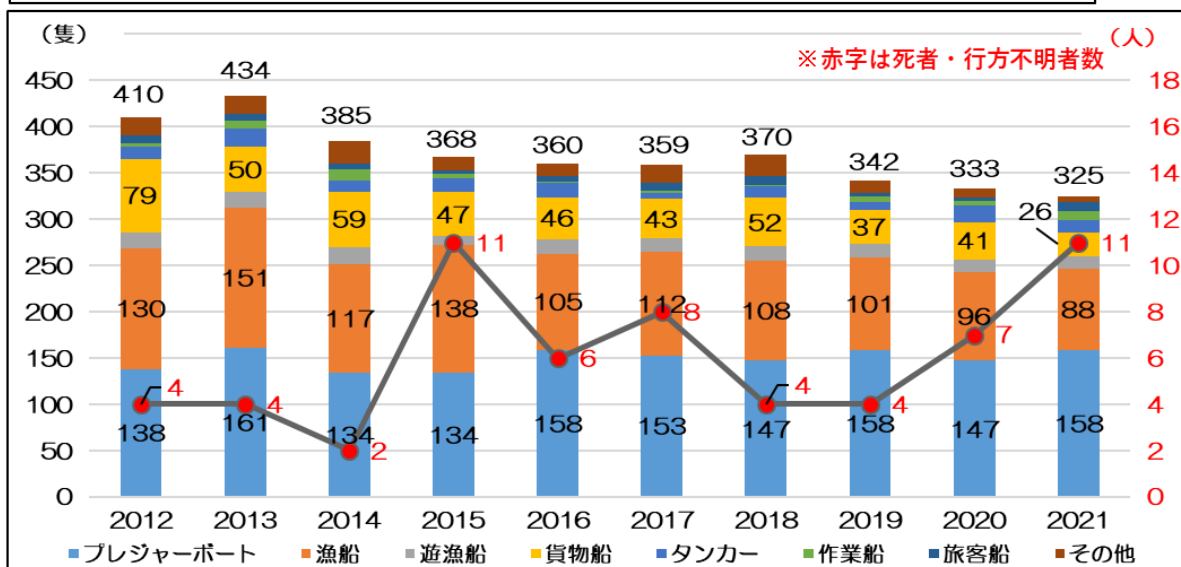


海難種類別発生状況

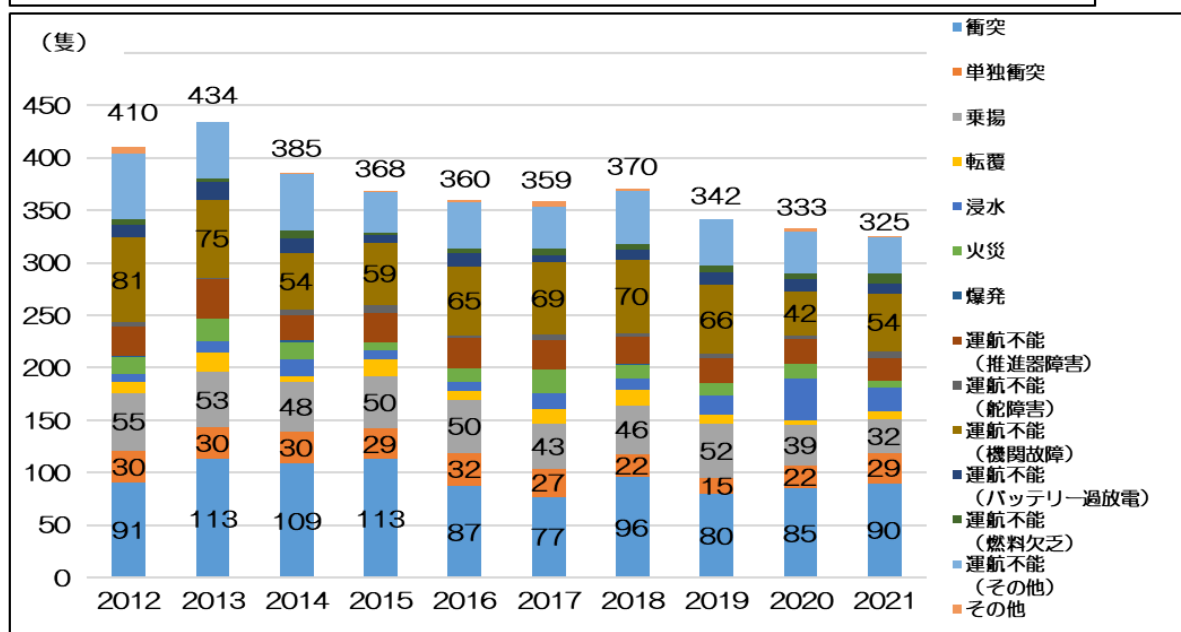


*1 船舶の用途の「その他」は練習船、監視取締船、軍艦等
*2 海難の種類「運航不能」は、推進器障害、舵障害、機関故障、バッテリー過放電、燃料欠乏、ろ・かい喪失及び無人漂流、転覆に至らない船体傾斜、走錨及び荒天難航等を含む

船舶種類別発生状況（過去10年間（2012～2021）） *2021年は速報値12月12日現在



海難種類別発生状況（過去10年間（2012～2021）） *2021年は速報値12月12日現在



県別船舶種類別発生状況（過去10年間（2012～2021）） *2021年は速報値12月12日現在

	山口県	福岡県	佐賀県	長崎県	大分県
プレジャーボート	10	55	27	47	19
漁船	10	14	3	45	16
貨物船	3	14	0	4	5
その他	3	15	5	16	14
総計	26	98	35	112	54

*2021年は速報値12月12日現在

	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
ミニボート	6	9	11	5	9	10	11	17	13	25

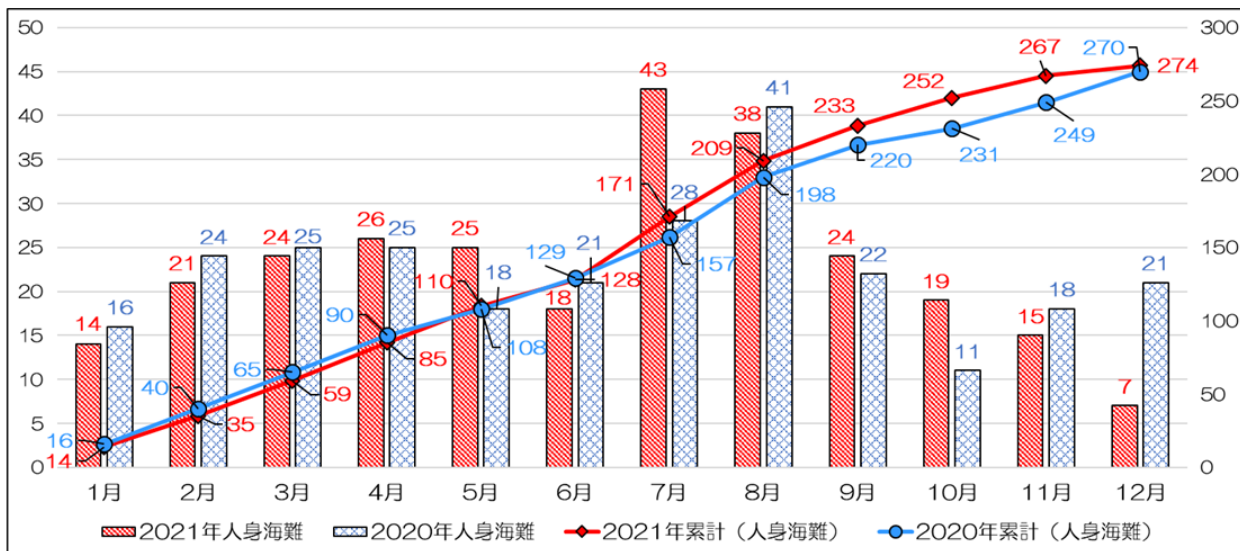
船舶海難の発生状況を見てみると、2021年は11月末時点において、若干の増加傾向であり、船舶種類別・海難種類別の発生状況においても大きな変化は見られなかった。

なお、プレジャーボートの詳細を確認するとミニボートが2021年は11月30日現在で25隻（前年+12隻）と増加している状況が確認された。

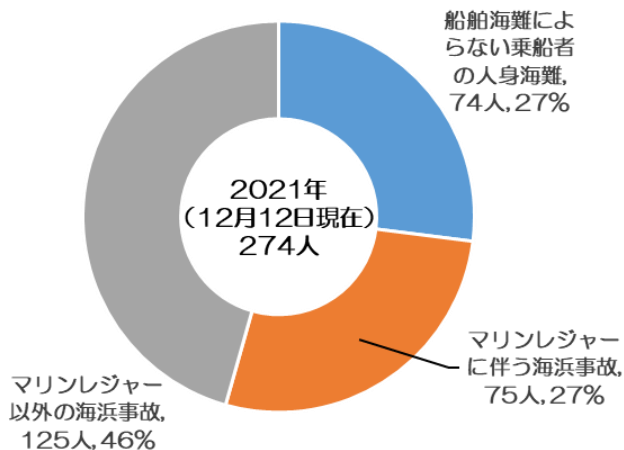
人身海難の発生状況

2021年は速報値（12月12日現在）
2020年は確定値

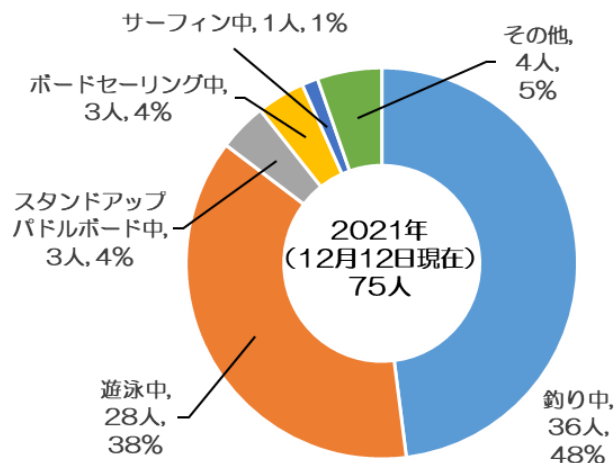
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2021年人身海難	14	21	24	26	25	18	43	38	24	19	15	7
2020年人身海難	16	24	25	25	18	21	28	41	22	11	18	21
前年差	-2	-3	-1	1	7	-3	15	-3	2	8	-3	-14
2021年累計（人身海難）	14	35	59	85	110	128	171	209	233	252	267	274
2020年累計（人身海難）	16	40	65	90	108	129	157	198	220	231	249	270
前年累積差	-2	-5	-6	-5	2	-1	14	11	13	21	18	4



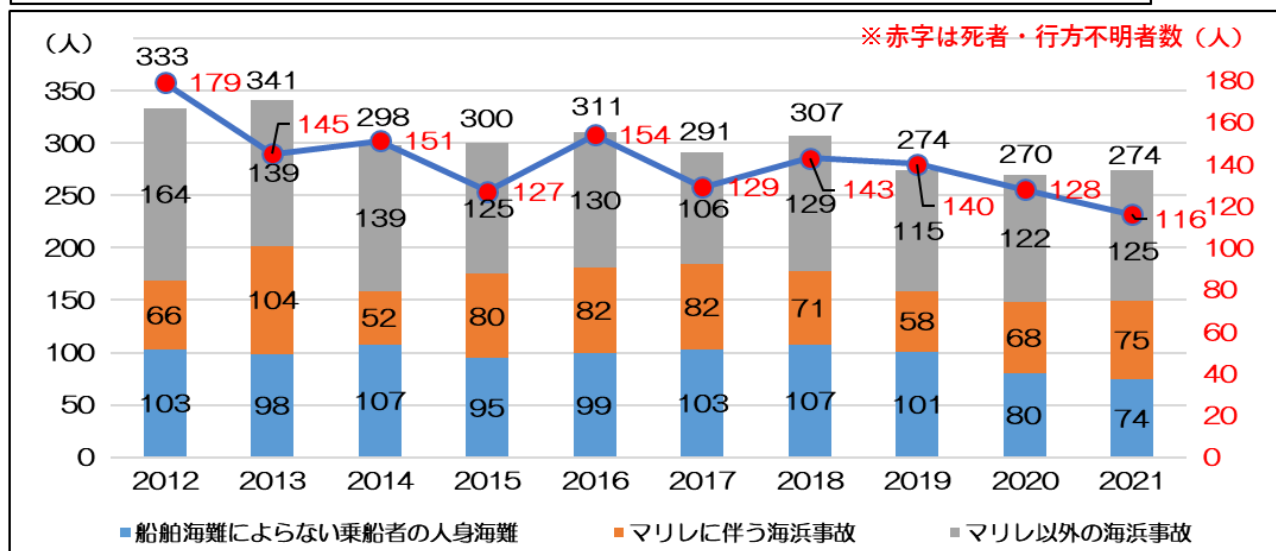
事故区分別発生状況



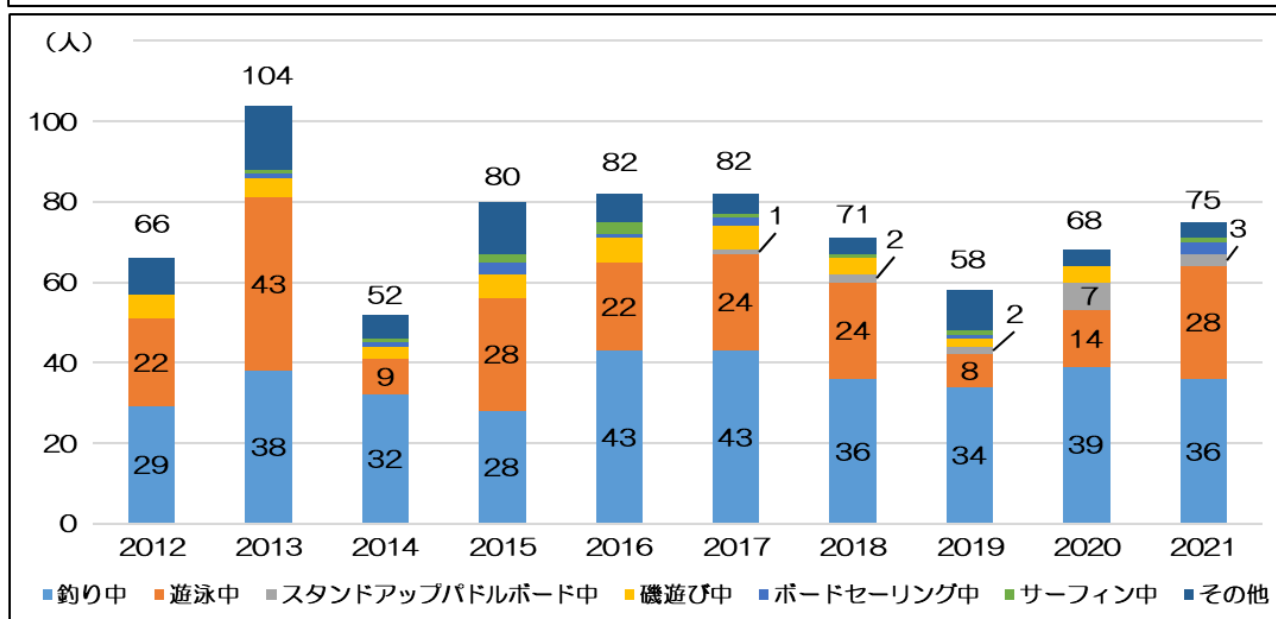
活動種別発生状況
(マリンレジャーに伴う海浜事故)



事故区分別発生状況（過去10年間（2012～2021）） *2021年は速報値12月12日現在



マリレジャー活動内容別発生状況（過去10年間（2012～2021）） *2021年は速報値12月12日現在



県別事故区分別発生状況（過去10年間（2012～2021）） *2021年は速報値12月12日現在

	山口県	福岡県	佐賀県	長崎県	大分県
マリレに伴う海浜事故	15	21	10	16	13
マリレ以外の海浜事故	20	43	6	35	21
船舶海難によらない乗船者の人身海難	11	23	5	24	11
総計	46	87	21	75	45

人身海難の発生状況を見てみると、2021年は12月12日現在であるが、若干の増加傾向であり、事故区分別を確認するとマリレジャーに伴う海浜事故に若干の増加傾向がみられた。

なお、マリレジャーに伴う海浜事故を確認すると遊泳中における事故が2021年は12月12日現在で28人（前年+14人）と増加している状況が確認された。